

人生図書館とは

人生図書館には、誰かの人生を支え動かし、
大切に読み続けられてきた「人生の一冊」が並んでいます。
悩んだり、迷ったり、悲しんだり、喜んだり。
それぞれの本には、どんな時にどんなふうに勇気づけられたかなどの
エピソードのカードがそえられています。
そんなエピソードが綴られた「人生の一冊」が150冊置いてあります。
場所は、心齋橋のアメリカ村のマンションの一室。
部屋は10畳ほどの和室です。
そんな和室でくつろぎながら、ゆっくり本を楽しめる空間です。

どんな本があるのか

6歳から82歳までの人生の一冊がならんでいます。

何冊かを御紹介します。

「漂流」 吉村昭 著

ある経営者さんが、会社を倒産させてしまった人生のどん底で読み、
再起するきっかけとなる勇気をもらった本。

「いいからいいから」 長谷川善史 著

6歳の女の子からの寄贈の絵本で、何でも許してくれる優しいおじいさんの物語。
この本を読んで、お友達にやさしくできるようになった本。

「死にゆくものの礼儀」 遥洋子 著

介護中の男性が、この本を読んで、「100%の介護はないんだ。自分を責めずに介護をしよう」と
思え、自分を楽にしてくれた一冊。

「親が死ぬまでにしたい55のこと」 出版者編集本

1ヶ月前にお父さんを亡くされた女性が、父が他界する前に読みたかったと後悔したものの、今は
元気な母に親孝行をしていこうと前向きになれた本。

「幸福論」 アラン 著

大学受験に失敗して、ふさぎこんでいる時に、姉がそっと机に置いてくれていた
励ましの本。

人生図書館を作るきっかけ

{コミュニケーションスペースを作りたいかった}

ネット社会で多くの人達とつながれるが、実際に会ったり話したりするコミュニケーションが薄れてきているように思う中、心のふれあいが出来るような空間を作りたいと思いました。

{命の大切さを思う}

私が10歳の時、幼い弟が2歳で交通事故で亡くなっており、

命の尊さを思いながら生きてきました。

昨今、自殺者の数が年間3万人を超え、若い方の自殺をニュースで知ることもあります。

やはり、苦しい時迷った時、その人達を救えるとはまでは思わないけれど、

「苦しいのは自分だけじゃないよ」と共感できるような場所があれば、

少しでも心の荷物をおろしていただけるかなという思いから作りたいと思いました。

人と本とのつながり

「漂流」を読んで

一人の人をどん底から勇気づけたを読んで、自分よりもっと苦しい人もいる。

自分もがんばらねばと思えた 20代 美容師

「いいからいいから」を読んで

6歳の女の子のピュアなメッセージをみて、自分も優しくなれるような気がした。

すごく癒された一冊である 30代 女性

「死にゆくものの礼儀」を読んで

介護に明け暮れた過去の日々を思い、涙が零れ落ちた。

あの頃の自分を認めたい。そして今の仕事も自分を責めないでやってゆきたい

30代 介護士

「親が死ぬまでにしたい55のこと」を読んで

親孝行をしたい気持ちになった 10代 女性

息子に今のうちから読ませたい 60代 女性

「幸福論」を読んで

この中の「遠くをみよ」というページを読んで、近くばかりを見て引きこもりになっていた自分を省みた。少し楽になれた 20代 男性

来館者さんを見て感じること

若い方で悩んでいる方が多いように思います。

特に今の時期は、就職、転職で悩む方が多く来館されます。

いろんな本を手にとり、ひとつづつメッセージを読んでおられます。

そして、つれづれなるままに書いていただける人生図書館日記に綴られている文章をみると、

「自分を見つめる機会になりました」という方が多いように思われます。

誰かの人生のメッセージを受け取り、自分を振り返り、自分の中の気持ちの整理をしておられる姿も見受けられます。

これから

人生の一冊をひとりでも多くの方にご寄贈いただき、

心のバトンをつないでいきたい思いと、

自分を見つめなおす空間としても利用して頂きたいと願っています。

人生図書館 田中希代子